
全面改訂版 プロローグ

『英語の論理的スピーキング力 UP シリーズ』は、2004 年に第 1 作が大ヒットして以来、多くの学習者に支持され、今回、さらに進化を遂げた第 6 作目を刊行することになりました。振り返ってみれば、この 20 年は、まさに激動の時代でした。2008 年の世界金融危機は市場経済への信頼を揺るがし、2011 年の東日本大震災と福島第一原発事故は、エネルギー政策と安全のあり方を問い直しました。また、新型コロナパンデミックは、医療、経済、教育、働き方、国際交流を一変させ、ロシア・ウクライナ戦争は、冷戦後の国際秩序、安全保障、エネルギーと食糧の問題を世界に突きつけました。

そして、今後 20～30 年は乱世的な側面がさらに強まると予測されています。

AI 革命や高齢化によって格差が増大し、日本の社会・経済システムは、今後 20～30 年で、物価は約 2 倍に上昇する一方、賃金は約 1.5 倍にとどまり、年金給付は実質的に半減すると予測されています。現在は会社と個人が負担した保険料に見合う給付として約 8 割程度の給付が見込まれていますが、将来は 5 割程度まで低下する可能性も指摘されています。また、会社と個人が負担する社会保険料率も、1960 年頃には給与の約 10%程度だったものが、現在では約 31%まで上昇しており、今後は 40%を超え、50%近くに達する可能性があると考えられています。その結果、現役世代の手取りや可処分所得は大きく圧迫され、教育、医療、子育て支援など幅広い社会サービスが整備されているスウェーデンとは対照的に、日本は「負担増・給付減・不安定福祉社会」という厳しい現実と直面しています。

『LIFE SHIFT（ライフ・シフト）—100 年時代の人生戦略』が出版されてから 10 年以上が経ちましたが、今や、20 世紀末までの「貯金と年金だけで安心

して老後を過ごせる」という時代ではないので、そこで、アリストテレスの唱える「**The Golden Mean (状況に応じた最適な判断)**」を養い、60代、70代、80代になっても、自ら価値を生み出し続ける知識とスキルを身につけることが不可欠です。そのために必要なのは、世界情勢や世界経済を洞察する見識、**時代の変化を予測する力、そして自分の資産と人生を守るためのフィナンシャルスキル**です。世界の成長産業や金融市場、税制、金利、為替、地政学リスクなどを総合的に理解し、自分の頭で分析・判断し、行動する力が求められます。その土台となるのが、情報を鵜呑みにせず、**歴史的・国際的・多面的な視点から物事を検証し、合理的な結論を導き出すクリティカル・シンキングとアーギュメント力**です。

今から約150年前に、同様のことを福沢諭吉氏はその著書“学問のすずめ”の中で述べています。有名な言葉、“天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず”は、人は生まれながらに身分の上下はないが、賢人と愚人、富めるものと貧しき者の違いは、**学ぶことで知識や能力を身につけ、自立し、自分の人生を切り開ける**かどうかである。また、福沢諭吉の思想を代表するもう1つの有名な言葉、「一身独立して一国独立す。」は、一人ひとりが自立してこそ、国も真に独立できるという意味で、孔子も今から2500年前に、自立、すなわち、世間やメディアの報道に翻弄されず、自分で判断して見極めることの重要性を力説しています。

本書は、こうした古今東西の偉人たちが遺した金言や思想を礎とし、現代社会が求める「自ら考え、判断し、行動できる人材」の育成という時代のニーズに応えるべく、英語学習を単なる語学訓練にとどめず、世界情勢を英語で学び、多面的な視点と論理的思考力・発信力を養うための知的トレーニングを提供します。そのため、序章では、現代世界が直面する重要課題や脅威を、その優先順位とともに概観し、それらを読み解くために不可欠なアーギュメント（論証）とクリティカル・シンキングの本質を体系的に解説します。続く各章では、「経済・ビジネス」「環境」「政治・国際関係」「医学・医療」「司法・犯罪」「科学

技術」「教育」「メディア」「文化・社会」という、現代社会を理解する上で欠かせない9つの分野を取り上げます。各テーマについて、世界の最新動向を理解し、その背景や課題を多角的に考察し、根拠に基づいて自らの意見を構築し、それを英語で論理的かつ説得力をもって発信する力を、段階的かつ体系的に習得できるよう前著より数段バージョンUPしました。

本書の特長

本書には、英語力と世界情勢を読み解く力、クリティカル・シンキング、アーギュメント（論証）、ディベート力を総合的に養えるよう、次のような特色を盛り込みました。

①重要トピックの体系的整理、各分野の重要トピックを体系的に分類し、重要度・論争度・試験頻出度を図解して全体像を把握できるようにしました。

②論争のフレームワークを提示し、各トピックについて、論争度、議論のフレームワーク、試験難易度を明示し、「何が争点なのか」「どのような視点から議論すべきか」を一目で理解できるようにしました。論述、ディベート、面接に必要な論点整理の指針も示しています。

③世界情勢を理解するための背景知識、各テーマを論じるために不可欠な歴史的・政治的・経済的背景を整理し、多角的な視点から議論できるよう構成しました。

④Pros & Consの徹底分析、賛成論・反対論を比較・分析し、それぞれの論拠の強さを独自の指標（％）で示し、説得力や重要度を客観的に比較・評価できるようにしました。

⑤アーギュメント力を鍛える実践演習 Cross-examination（反対尋問）、Follow-up Questions（掘り下げ質問）、Extended Questions（発展的質問）、Counter-arguments（反論）など、本格的なディベートや面接にも対応できる演習を豊富に収録しました。

⑥生成AI時代のクリティカル・シンキング AIが提示した情報を鵜呑みにすることなく、その妥当性・論理性・根拠を検証し、必要に応じて反論・修正しながら、自らより良い結論を導く演習（「アーギュメントを検証」）を数多く取

り入れました。

⑦すぐに使える論証・ディベート表現、アーギュメント、ディベート、プレゼンテーション、エッセイでそのまま活用できる必須表現や論理展開フレーズを豊富に収録しました。

⑧世界で通用する発信力の育成、英語力の向上と同時に、AI に翻弄されない論理的思考力、論証力、プレゼンテーション能力を統合的に鍛え、国際社会で自分の意見を論理的かつ説得力をもって発信できる力を養います。

最後に、本書の制作にあたり、惜しみない努力をしてくれたアスパイアスタッフの上田敏子氏（第1・9章執筆、全体構成）、北川らん氏（第2・7・8章執筆）、門田薫氏（第3・5章執筆）、Michy 里中氏（第4・6章執筆）、西宮正太郎氏（校正協力）、ならびに本書の刊行を力強く支えてくださったベレ出版編集の脇山和美氏、そして参考資料の整理・調査に協力してくれたAI ツール（ChatGPT、Gemini）にも、心から感謝の意を表します。そして何よりも、私たちの努力の結晶である本書を手にとってくださった読者の皆様に、心よりお礼申し上げます。それでは皆さん、明日に向かって英悟の道を

Let's enjoy the process! （陽は必ず昇る）

植田一三 (Ichy Ueda)

「検証」マーク付きのトピックでは、グレーの英文の主張の弱点や問題点を検証し、より説得力のある英文へとリライトして音声収録しています。そのため、グレーの英文は収録していません。